

歴史と地形から愛知を知る「ブラアイチ」の取組み

いま 井 誓 也*

1. はじめに

ブラアイチとはNHKの人気番組「ブラタモリ」を模した取組み。その目的は地形の成り立ちからそれを踏まえた地域のインフラ整備の歴史やまちの成り立ちなどを紹介しながら、さらに付け加えて地域の魅力を発信することであり、まちあるきイベントなどを開催している。



～歴史と地形からアイチを知る～

図-1 ブラアイチロゴマーク

2. 取組みの背景と目的

1) 背景

近年、住民が、身近に流れている川や、河川による地形の成り立ちのことに無関心になっており、日常生活から切り離されているのではないかと感じる。

災害（大雨、洪水）というのにはあり得ないものではなく、あくまで日常の続きにあるもので、普段の川の姿を知っていれば異常事態をイメージできる。自分の住んでいる地形について知っていればどこが低くて浸水するのも考えることができる。

防災の知識もさることながら、そういったことをまずは知ってもらいたい。

ただ、川、地形、防災のイベントを開催しても興味のある人が参加するだけで、裾野を広げることができない。そこで楽しく、気が付いたら学ぶことができるといったイベントができないだろうか？と考え、ブラアイチの取組みをはじめた。

2) 事業目的

本事業は防災知識のベースとなる地形の高低や河川のことを「楽しく」知ってもらうことを目的としている。防災、それに関わるまちづくりのことをどのように楽しく学んでもらうかということ、単純ではあるが「観光」というお楽しみ要素を取り入れることとした。

「防災」「まちづくり」「観光」の3要素を連携させることでより楽しく、幅広い層に啓発できると考えた。この3要素は「地形」と「歴史」という共通項で連携させることができる。



- ・まちの成り立ちを知ることによる「まちづくり」意識の啓発
- ・過去の災害や地形を知ることによる「防災」意識の啓発
- ・県内各地への興味を呼び起こすことによる「観光」促進

図-2 ブラアイチの事業目的

3) 実施体制

(1) 開催までの流れ

開催希望調査を市町村対象に実施し、選定。

開催地が決まったら、前述の防災、観光、まちづくりを満たすことができるようなスポット、ストーリー、コースを設定・作成。開催方法は場所によって適した方法を選定している。

(2) 開催に向けて

実施体制では県庁河川課に事務局をおき、有志職員でプロジェクトチームを組んで進めている。現場について、市町村、NPO等の地元団体と協力をしてコース、ストーリー作り、当日の各スポットでの説明などを行っている。

4) 開催方法

(1) まちあるき形式

参加者はブライイチで作成した地図をもとにまちを歩き、各ポイントで県・市職員、地元団体等が、そのまちの歴史や地形上の特徴等を説明。引率などは無く、参加者自らの意思で散策をしてもらう形式。基本的にはこの形式での開催をしている。なお、マップなどは県・市の職員が直営で作成している。



図-3 ブライイチマップ表面（岡崎開催時使用）

(2) ツアー形式

定員を設定し、あらかじめ決めたコースをバス・船・徒歩等で案内をする。今までに船・徒歩でのツアーを開催した。なお、船を貸し切りとしたため、有料開催で行った。

3. 今までの開催状況

現時点で5回の企画、4回の開催をしている。

1) ブライイチ in 岡崎

タイトル	天下人ブランド！ 岡崎の城下町はどうつくられた？
開催日	平成29年12月24日（日）
形式	まちあるき形式
参加人数	303名（途中参加407名）

川の付け替えと河川整備・水害の歴史、東海道の整備や矢作川の舟運と地元特産品である八丁味噌の全国への普及の関係、など岡崎のまちの発展と主に近世の土木インフラ整備の関係を説明した。

2) ブライイチ in 中川運河・名古屋港

タイトル	ものづくりを支えた運河と港を船で巡る
開催日	平成30年3月20日（火）／21日（水）
形式	ツアー形式（船・徒歩）（有料）
参加人数	65名（20日30名、21日35名）

中川運河が大正時代以降の物流に果たしてきた役割や、近年の新たな水辺空間の再生の取組みを船内で説明し、名古屋港では、地形上流れ込む土砂を浚渫し続けなければならないこと、IT等最新技術を駆使して運営されている現在の名古屋港の姿等を説明した。

3) 第3回 蟹江町

タイトル	川と水に育まれたまち、蟹江を歩く
開催日	平成30年6月16日（土）
形式	まちあるき形式
参加人数	515名

日本有数の海拔0m地帯を有する海部地域にある蟹江町。今のまちのルーツは微高地である自然堤防沿いで発展したことや、過去複数の川が流れ込むことから港として栄えており、川と水によって発展したことなどを説明した。



写真-1 蟹江町を流れる川についての説明の様子

4) 第4回 豊橋・とよがわ

タイトル	ブライイチ×MIZBERING
開催日	平成30年7月7日（土）
形式	ツアー形式（徒歩）（無料）
参加人数	天候不良により中止

5) 第5回 ^{へきなん} 碧南

タイトル	歴史と潮風の香るまちをブラブラ
開催日	平成30年11月3日(土)
形式	まちあるき形式
参加人数	350名

碧南市は江戸のころにはほとんど海の中にあった。しかし、慶長年間の徳川幕府によって矢作川が付け替えられ、その付け替えられた矢作川によって運ばれた土砂が堆積し陸地を広げ、今の碧南を形成したこと等を説明した。

4. 開催の効果について

1) アンケート結果

まちあるき形式で開催した岡崎、蟹江、碧南を集計した。

【参加者層】

	岡崎	蟹江	碧南	全体	
市町内	119	91	49	259	38.5%
県内	109	124	145	378	56.2%
県外	7	24	5	36	5.3%

地元住民の参加が多数を占めると予想していたが、開催市町以外からの参加者が半数以上を占める結果となった。

	岡崎	蟹江	碧南	全体	
20歳未満	15	10	6	31	4.6%
20代	8	13	11	32	4.8%
30代	12	15	13	40	5.9%
40代	60	48	31	139	20.7%
50代	66	53	71	190	28.2%
60代	47	54	44	145	21.5%
70代以上	27	46	23	96	14.3%

年代別参加者内訳は40代以下35%、50代30%、60代以上35%となった。様々な要素を取り込んだイベントを目指しており、その結果参加者層を広げることにつながったと考える。

【次回以降参加したいか。】

	岡崎	蟹江	碧南	全体	
したい	195	134	101	430	64.0%
内容・場所による	0	105	97	202	30.1%

したくない	1	0	0	1	0.1%
不明	39	0	0	39	5.8%

次回以降も参加したいという声が多く、参加者の評価は高かったと考えている。

2) アンケート自由記述

「自分の地元ながら土地の成り立ちの歴史を知らなかった。」「過去の河川が今なお地形として影響していることに驚いた。」などの声があった。

5. 今後の展開について

1) 県内各地での開催

土地にシンボリックなものがないとしても、そのまちの成り立ちを多面的に紐解くことに面白みがあり、どこの市町村でも魅力が必ずあると考えている。全県的に様々な地での開催をしていきたい。

2) 成果の公表、および幅広い活用

当日参加していない人たちにも川、地形に関心を持ち、さらにはまちの魅力を知ってもらえるよう、マップ等を公開するWEBページの整備を進め、より周知できるようにしたい。

6. おわりに

この取組みは、一見すると建設行政から外れた特異なものに見えるかもしれない。しかし大きく2つのメリットがあると考えている。

①住民への啓発効果

自分の住んでいる土地に関心を持ち、土地の高低、近くを流れる川を知り、防災やまちづくりのベースとなる知識を啓発することができる。

②建設職員の知識・関心の向上

自ら担当する市町村の成り立ち、過去の建設工事の痕跡、意図、現在への影響を知ることで、建設行政への理解が深めることができる。

こういった効果を少しずつ積み重ねることができればいずれ大きな意味を持つと考えている。来年度以降も継続して取り組んでいきたい。